

放射性セシウムによる損失余命

【リスクを比べたい方向けの情報です】

| 年齢 | 損失余命 (日/実効線量[mSv]) | 損失余命 (秒/経口摂取Bq) |
|-------|-----------------------|--------------------|
| 0 | 1.7 | 3.5 |
| 0-9 | 1.4 | 1.4 |
| 10-19 | 1.0 | 1.3 |
| 20-34 | 0.6 | 0.8 |
| 35-49 | 0.3 | 0.4 |
| 50- | 0.1 | 0.1 |

出典：岡敏弘先生

<http://www.s.fpu.ac.jp/oka/kome.htm>

Cs-134とCs-137をそれぞれ半々としています

限界

- 損失余命はリスクを集団で平均化
 - それぞれの曝露は様々な影響を及ぼしうる(よい影響も含めて(ただし放射線ではよい効果は疫学研究では証明されていない))
 - 放射線による損失余命は致死性がんの罹患を想定
 - それぞれの曝露による損失余命はある致死性疾患の罹患を想定(他の疾患を想定していない)
- リスク認知は主観的
 - リスク比較は他人から押しつけられるものではない
- トレードオフを考えるのは重要だが補償原理(リスクの公平な分配)が機能していることが前提